

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立竹矢小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

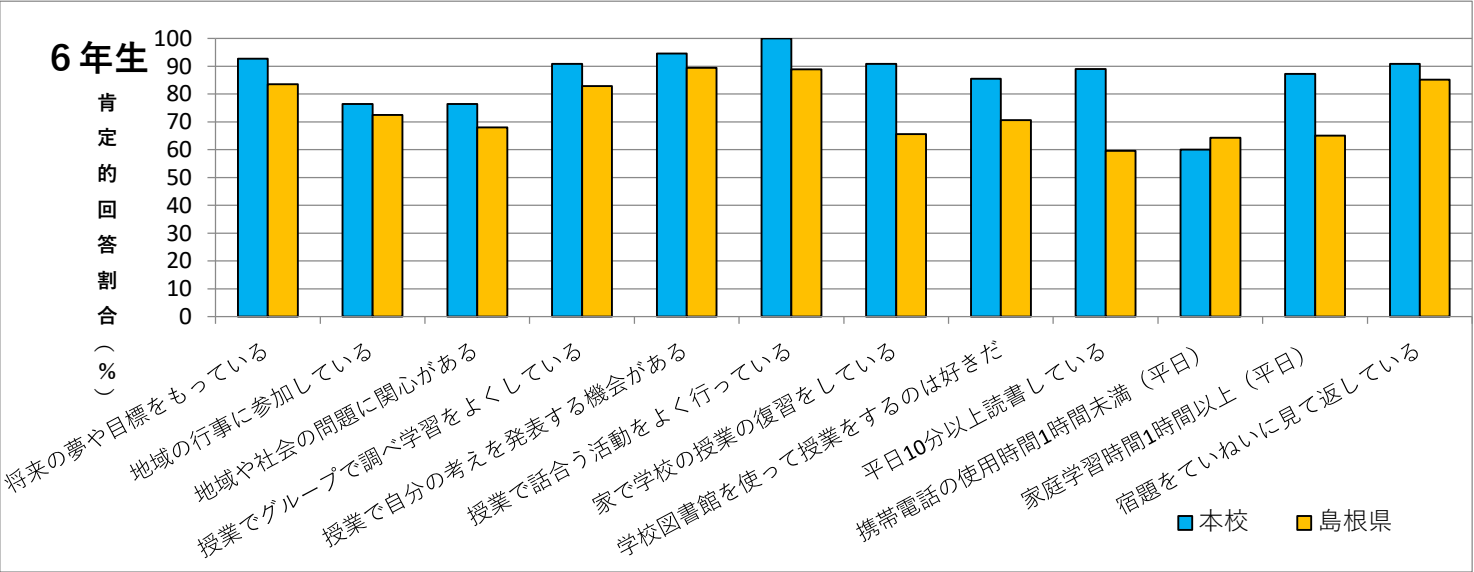
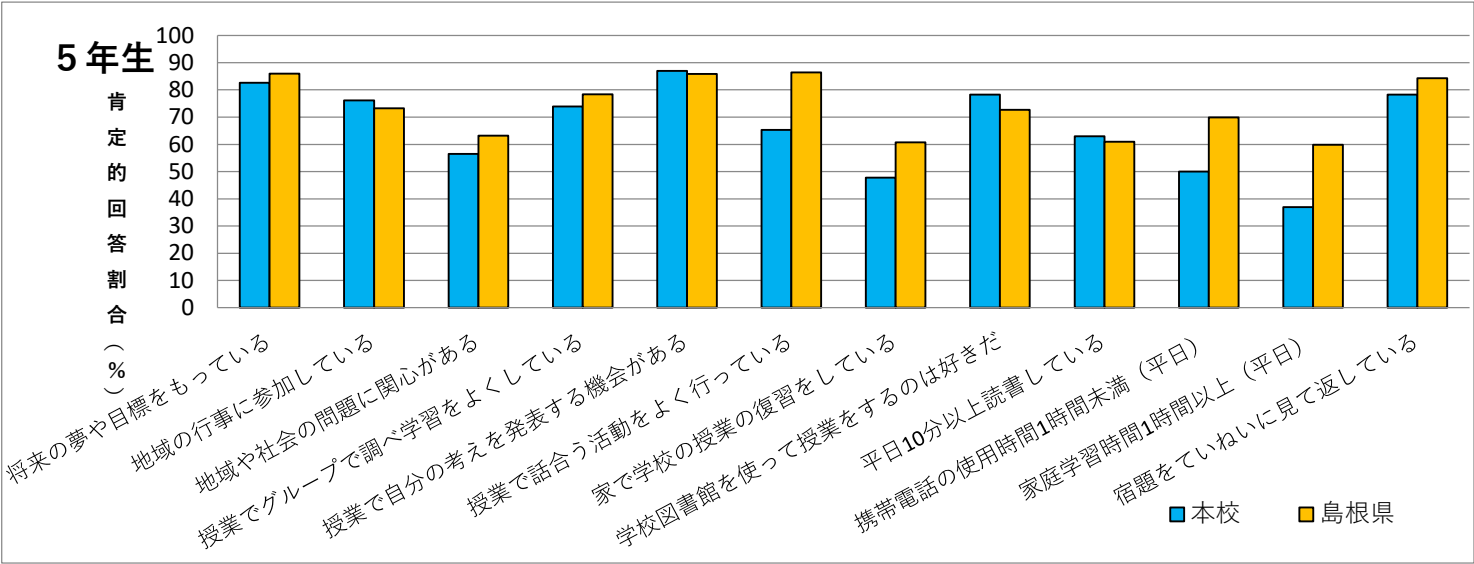
		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字やローマ字は、県平均とほとんど変わらない。 ●話す・聞く領域の問題の正答率が低くなっている。 「メモの取り方の工夫」「発言のねらい」県平均より10ポイント以上低い。 ●条件のある記述式の設問の正答率が低い。	・漢字やローマ字など基礎的な学習の繰り返し練習は今まで通り進める。 ・話のメモをとったり、要約したりする活動を取り入れる。 ・書くことに慣れさせるように、書く活動をいろいろな場面で取り入れていく。
	算数	○量と測定領域は県平均とほぼ同じくらいできている。 ●図形領域が特に低くなっている。展開図や合同な三角形の条件の問題の正答率が低い。 ●数量関係の領域では比例の式に表す問題が低い。 ●四則計算の混ざった計算の理解が十分ではない。	・操作活動を取り入れた具体物での図形学習を今以上に取り入れる。 ・四則計算や比例の問題など、ただ解くだけではなく、友達同士で説明しあう活動を入れた授業を行っていく。
6年	国語	○読みの領域はできている。 ○漢字の読み書きの習得もできている児童が多い。 ●話す・聞くの領域が県平均を下回っている。 ●条件のある記述式の設問は正答率が低い。	・漢字やローマ字など基礎的な学習の繰り返し練習は今まで通り進める。 ・話のメモをとったり、要約したりする活動を取り入れる。 ・書くことに慣れさせるように、書く活動をいろいろな場面で取り入れていく。
	算数	○基礎的な計算問題はしっかりとできている。 ○単位量あたりの大きさや速さ、グラフの読み取りの問題など、県平均を上回っている問題も多くあった。 ●二極化が進みつつある。 ●図形の問題が県平均よりも低くなっている。	・基礎的な計算問題の繰り返し練習を継続する。 ・操作活動を取り入れた具体物での図形学習を今以上に取り入れる。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

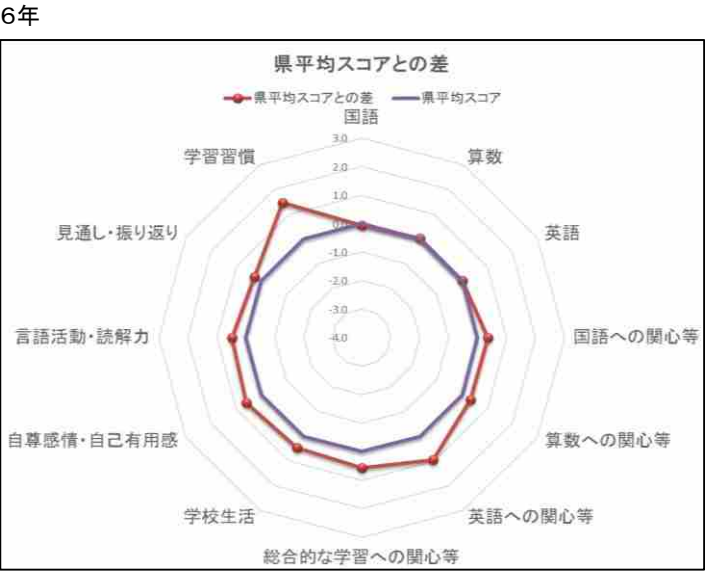
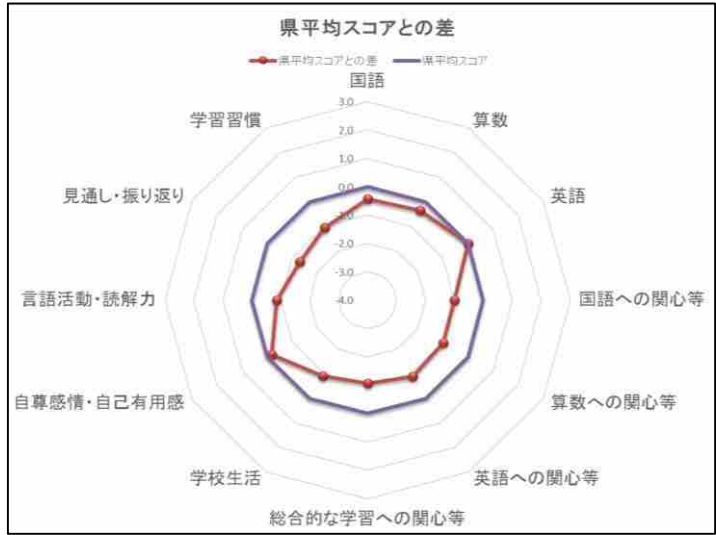
平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○考えを発表する機会や図書館の利用については高い数値が表れている。 ●話し合う活動や調べる活動の数値が低くなっている。	・調べ学習や話し合い活動を取り入れた授業を各教科で取り入れ、友達同士の学び合いを増やしていく。
	家庭学習に関わる事項	○家庭読書の時間は県平均より高い数値が出ている。 ○地域行事への参加の割合も高く、地域とのつながりが強い。 ●家庭での学習時間は、1時間以上の割合が40%を切っている。また、授業の復習をしている割合も50%以下と低く、家庭学習の定着ができていない。 ●携帯電話の使用時間は県平均よりも高くなっている。	・家庭学習や携帯電話の使用時間などについて、学級懇談会や学級だよりを通して保護者へ伝え、家庭での協力をお願いする。
6年	授業改善に関わる事項	○グループの調べ活動や話し合い活動、図書館利用に対する数値は高い。	・調べ学習や話し合い活動を取り入れた授業を継続していく。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習1時間以上の割合は90%近く、家庭学習は定着している。 ●携帯電話の使用時間は、県平均より高くなっている。	・携帯電話の使用時間について、学級懇談会や学級だよりを通して保護者へ伝え、家庭での協力をお願いする。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果



(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	56	47
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生 46 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	66	59
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生 55 人